

第 1 9 6 1 回埼玉県教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和 5 年 8 月 8 日 (火) 午前 1 0 時開会  
午前 1 1 時 4 6 分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 日吉教育長、戸所教育長職務代理者、坂東委員、小林委員、首藤委員、櫻井委員、石井副教育長、古垣教育総務部長、青木県立学校部長、石井市町村支援部長、角坂県立学校人事課長、杉田高校教育指導課長、橋本特別支援教育課長、井澤財務課長、中沢教育政策課長  
案浦書記長、小島書記、岩城書記、太田書記
- 4 会議の主宰者 日吉教育長
- 5 会 議
- o 日程の変更について  
日吉教育長が、日程を変更し、(5)その他を先に行うこととする動議を提出  
全出席委員がこの動議に賛成し、日程を変更することを決定
- (5) その他  
案浦書記長 前回会議における第 6 7 号議案「令和 6 年度当初教職員人事異動方針について」の質疑において、戸所委員からの御質問に対する答弁に一部誤りがあったため、この件について説明します。それでは、当該議案の担当課長である県立学校人事課長から説明します。  
角坂県立学校人事課長 前回の第 6 7 号議案「令和 6 年度当初教職員人事異動方針について」について、その基本方針の一部にある「女性教職員の管理職への積極的な登用に努めること」に関し、戸所委員からの「どのくらいの割合の女性が応募しているのか」との質問に対し、私から、小中学校における女性の校長及び教頭の割合について、「昨年度から 0. 9 % の増加」と答弁しました。しかし、実際は 0. 4 % の増加です。お詫びして訂正します。

(1) 前回議事録の承認

(5)その他の説明を踏まえ、訂正した議事録を次回の会議で承認することとした。

o 会議を公開しないこととする事項について

日吉教育長が、第71号議案の審議について、会議を公開しないこととする動議を提出

全出席委員がこの動議に賛成し、当該事項について会議を公開しないことに決定

o 日程の変更について

日吉教育長が、日程を変更し、会議を公開しないこととした事項以外の日程について先に行うこととする動議を提出

全出席委員がこの動議に賛成し、日程を変更することを決定

(2) 協議事項

ア 令和6年度埼玉県立高等学校において使用する教科用図書の採択について

日吉教育長 この協議につきましては、高等学校の教科書採択に関する協議でありますので、委員御自身が教科用図書の発行者との関わりがあれば、御発言をお願いします。

(発言なし)

日吉教育長 特にないようですので、このまま先に進めさせていただきます。協議の進め方ですが、まず、事務局から概要について説明させます。事務局の説明に対する質疑を行った後、各教科・科目における教科書の調査研究及び各学校の選定理由書等の確認を踏まえた御意見などを伺います。その後、採択案をまとめるに当たっての総括的な質疑・意見交換を行うという流れで、進めてまいります。それでは、まず、事務局から説明させます。

杉田高校教育指導課長（提案理由、文部科学省検定済教科書及び文部科学省著作教科書並びに令和6年度使用埼玉県立高等学校教科書申請数一覧について説明）

日吉教育長 それでは、事務局の説明に対する質疑を行います。御質問はありますか。

戸所委員 高等学校学習指導要領の改訂のポイントを踏まえて、教科書選定において、各学校に対してどのように指導したのか、教えてください。

杉田高校教育指導課長 今回の高等学校学習指導要領の改訂では、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」がポイントの一つです。県では、高等学校学習指導要領の改訂に伴い、各学校に通知した「令和6年度使用埼玉県高等学校教科書の選定基準等について」において、「3 調査の観点」というところで、「生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する上で、どのような配慮がなされているか。」について項目を加え、各学校でこれに基づいて調査・研究をするように指導しました。

小林委員 教科書検取について説明がありましたが、具体的に事務局は何を行ったのか教えてください。

杉田高校教育指導課長 今年度は7月の当初に4日間にわたり実施しました。具体的には高校教育指導課の指導主事が、各学校が選定した教科書について、教育課程表に基づき選定しているか、また、「選定理由書」が適切に作成されているか等を確認しながら、各学校の教科書選定が適切に行われているかどうか審査し、不備があれば修正させたり、再提出させたりしています。

首藤委員 教科書選定には公平性・透明性が強く求められますが、改めて事務局としては、各学校における教科書選定の公正性・透明性の確保のため、学校に対して、どのような指導を行っているのか説明をしてください。

杉田高校教育指導課長 教科書選定の公正性・透明性の確保については、4月の校長会議、副校長・教頭会議等において、法令遵守と公正確保について徹底するよう「教科書発行者との適切な関係の確保に係る留意事項」という通知があり、その通知を基に指示をしています。特に、各学校で選定作業が本格化する年度当

初から7月初旬までは、教科書選定に関わる教科書発行者との接触については、公正性・透明性の確保の観点から控えること、という指導をしています。

日吉教育長 事務局の説明に対する質疑は、他にございますか。

(発言なし)

日吉教育長 次に、教科書の調査研究に取り組んでいただいた上での御意見をお願いします。

日吉教育長 私は昨年まで学校現場にいて、校長として校内では教科書を主体的に選定するように教員を指導し、また、私自身も研究してきました。今回は教育長という立場で、改めて教科書を研究しました。私は国語の教員ですが、国語に関して言うと、埼玉県の高校生にとって、これからの時代、人の話をしっかりと的確に聞くことができるということ、つまり、傾聴すること、さらに、自分の考えを分かりやすく表現できるということは、とても大切なことであり、是非身に付けさせたい力であると思っています。その点において、国語表現の教科書を研究しましたが、中には、そもそも表現とは何か、それは人と人がつながることであるという説明から始まり、また、そのことをクラスメイトとのゲームなどを通じて実感できるよう工夫している教材がありました。また、小論文を書く單元の中では、複数のデータを組み合わせて分析するであるとか、あらかじめ、読み手の反論を予想しながら論旨をまとめるなど、これからの社会を生き抜くための社会人としての必要なスキルが丁寧に説明されている教科書がありました。また、小論文における課題テーマとして、災害ボランティアが取り上げられており、埼玉県の高校生がこれからの社会を生き抜いていく中で、例えば家庭科などの他教科で学ぶ内容を組み合わせて自分の考えをまとめ、それを表現する力は必要不可欠であると考えています。今後の持続可能な社会づくりのため、防災に関する観点というものも重要だと考えています。この点においても、現代の課題に即した教科書であると感じたものがありました。

首藤委員 まず教科書に目を通して、次に各学校の選定理由書に目を通してということを行ってきました。その過程で気付いたことが二つあります。まず、異なる教科の内容を生徒に意識させる教科横断的な題材を取り上げている教科書が

複数ありました。例えば文学国語では、森鷗外や夏目漱石といった文豪の留学に焦点を当て、日本史との教科横断的な学習ができるよう工夫された内容がありました。この他にも、書道Ⅲでは、日本を代表する万葉集の様々な写本を提示することで、生徒が国語科とのつながりを意識し、学習意欲を高めることを期待する構成となっている教科書がありました。このような教科横断的な視点での学習は多角的な学びを進める上でとても有効であると思います。国語では国語のことだけを学ぶ、芸術では芸術のことだけを学ぶということではなく、教科が関連して歴史や日本が誇れることを学ぶことは大変意義のあることだと感じました。もう1点は、A I等のテクノロジーに関することに着目して教科書を読みました。理科では、ドローンやC C Dイメージセンサ、G P S衛星測位システムなどから多数の情報を取得して、周辺環境や情報の解析を行うなど、データサイエンス的な内容に触れていました。英語コミュニケーションでは、A Iを効果的に活用することについての文章が取り上げられていました。現在、社会の様々な場面で生成A Iの活用が議論されていますが、これからの埼玉県の高校生には、様々な教科において、A Iのテクノロジーの発達に触れて、生徒に考えさせることが重要ではないかと感じました。

櫻井委員 私は、S D G sに関することに着目した上で教科書を研究してみました。数学Bでは、環境を守るという観点でごみの削減について考える課題が掲載されていました。目標値や一人当たりの排出量、人数などの数値をモデリングしながら考察をした上で、具体的にごみの排出量などを計算することによって、環境問題について意識を持てるような題材となっていました。他にも、美術Ⅲでは、使われなくなったものを違う視点で新しい意味を与えた上で、芸術作品として生き返らせ、見る者に様々なことを考えさせる作品づくりを目指した内容となっていました。いずれも、それぞれの教科を通じ、S D G sの実現に具体的に結び付ける重要な観点の内容であると感じました。

戸所委員 教科書を調査研究した結果、それぞれの科目の教科書において、分かりやすい内容を重視しているものもあれば、発展的な内容を重視しているものもあり、あらためて様々な教科書があるということを実感しました。その上で、大学

進学者の多い学校では、発展的な内容に重点を置いているものを使用してほしいと考えています。そういった観点から、学校の選定方針や選定理由書を読むと、学校の目標に合致した選定案が示されていることが確認できました。

日吉教育長 次に、教育委員の皆様には、5月から6月にかけて学校訪問へ行っていただきました。また、6月には8校の県立高校の校長と意見交換を行い、生徒の実態や教科書の使用状況、教科書の選定状況について確認をしていただきました。そして、7月に各学校から教科書の選定案が事務局に提出され、委員の皆様には各学校の選定案を確認していただきました。これらの取組を踏まえ、御意見をお伺いしたいと思います。

小林委員 川越南高校に訪問しました。また、川越南高校の選定理由書を確認しました。化学基礎の選定理由には、「Webコンテンツが豊富で、QRコードも項目ごとに掲載されており、生徒の主体的な学びを助ける構成である。身近な題材を用いて、様々な概念を分かりやすく学べるような工夫もなされており、思考力を身につけることができる内容となっている。」と記載されていました。該当する化学基礎の教科書を読んできましたが、理由書に書かれているとおりの表現であったり、分かりやすさであったり、内容に相違がないことを確認しました。また、川越南高校を訪問した際に、校長先生と活発に意見交換しました。3年間で身に付けさせたい八つの力というものがあり、組織として共通認識を持って教育活動に取り組んでいるという話を校長から聞きました。そのことが教科書選定においても川越南高校から提出された書類を見てもしっかりと反映されていることが改めて確認できました。校長先生が言っていたとおり、教科書について十分に研究されていることが伺えたと同時に、生徒の学びの実態に応じた教科書の選定ができていることを確認しました。特に、最近は進学に力を入れているとのことでした。その辺りのことも、各教科で対応されているということを見て取ることができました。

坂東委員 私は杉戸農業高校を訪問しました。生徒の皆さんは将来農業を主体とした勉強をしていくけれども、全体的にも学ばなければいけないという話を伺いました。農業は、自然や環境や生物に関する記載が豊富で、しかも生徒の実力や

学力に合わせた教科書を選定しているとお聞きしました。学校に植物のことが記載された古い教科書が残っていて、今の教科書と比較したりしながら、生徒に興味を持たせるような工夫をされており、興味を持ちました。農業もこれからどんどん発展していき、今とは違う農業、また、経済的なことも考えていかなければなりません。そういう視点も選定理由書には入っていました。そういうところから選ばれているということは勉強させてもらいました。

櫻井委員 私は大宮工業高校を訪問しました。大宮工業高校の工業技術基礎の選定理由書を読んでみたところ、「工業全般に関わる基礎的な内容の導入、工業の各分野の基礎的な加工技術を体験的に学ばせる基本作業編、基本作業の技術を総合的に応用して題材を製作し、生産の流れを体験的に学べる製作編の三つの編からバランスよく編集されており、説明図や図面等が効果的に掲載されている。」という記述がありました。その教科書の内容を確認してみると、導入編・基本作業編・製作編の三つがバランスよく構成されており、工業を学ぶ上での基本をしっかりと学習できる教科書であることが確認できました。訪問した際に、大宮工業高校は目指す学校像として「日本を支え 世界で活躍する 人間性豊かなエンジニアの育成」を掲げていることを伺いましたが、大宮工業高校の生徒たちにとって、適切な教科書であると思いました。

戸所委員 私は戸田翔陽高校を訪問しました。戸田翔陽高校の国語表現の選定理由書を確認したところ、「言葉に対する苦手意識を少なくし、表現力を養い、生徒の学ぶ意欲を高められる教科書である。」との記述がありました。その教科書を確認してみると、様々な工夫がなされており、生徒の学習意欲を高めることができるものであると確認しました。訪問した際にも、不登校を経験した生徒に対する支援体制や丁寧な指導に感動しましたが、教科書についても、生徒の持つ課題等を踏まえ、それに応じた選定を行うための適切な調査研究がされていると実感しました。さらに、「昼夜開講の3部制・総合学科・単位制という県内唯一のシステムで、生徒の進路希望や興味関心に合わせた学習スタイルで学び、一人一人の個性を伸ばす取組を行っている。」との説明がありました。それを踏まえて選定理由書を読んでみると、数学Ⅱの選定理由の中に「例題が基本的なものから

発展的なものまで多岐に渡り、様々な進路を目指す本校の生徒の要求に応えることができる。」との記述がありました。実際にその教科書を確認してみると、例題の難易度は様々で、幅広い学力層に対応できる教科書であることが確認できました。一人一人の個性を尊重し、それぞれの特性に合わせた教育活動を行う戸田翔陽高校の特色にしっかりと対応した教科書が選定されていることを確認しました。

首藤委員 松伏高校を訪問しました。音楽科の施設と教育方針に大変感銘を受けました。18のレッスン室、合奏室、合唱室などを備えた音楽科専用施設「シンフォニア」で、器楽の授業を見学しました。音楽科の生徒たちが、ひたむきに音楽と向き合っている様子が印象的でした。腕前もかなりのレベルに達していました。教科書選定に係る基本方針には、「専門的な技術・能力の伸長を図ることができる教科書を選定する。」と記載されています。音楽の選定理由書には、「歌唱、器楽、鑑賞の領域に加えて、新たに舞台芸術についても理解を深めることができ、」といった記載や、「芸術音楽、我が国及び諸外国の音楽、ポピュラー音楽、著作権等、分野の領域のバランスも良く幅広い学習活動の内容に対応することができる。」といった記載があります。教科書を確認してみると、確かに、内容も幅広く、専門性の高いものが選定されていました。音楽以外の教科についても、まず基本方針は「本校生徒にとって理解しやすく、興味・関心を持って学習に取り組める教科書を選定する。」との記載があります。また、「校長の権限と責任において、本校生徒の望ましい成長を促す教科書を選定する。」とも書いてありました。それらを踏まえて、数学の選定理由書を見てみると、「丁寧でわかりやすく、間違いやすいところが色分けされており、理解しやすい紙面構成になっている。苦手な生徒も多い2次関数や三角比でも、図が効果的に活用され、理解しやすいように工夫されている。」と記載されていました。教科書を確認してみると、確かに分かりやすく色分けされていたり、図が効果的に配置されていたりして、生徒の実情に合った教科書が選定されていることが確認できました。それぞれの教科において、選定の基本方針を踏まえた上で、組織的に選定していることが確認できました。

日吉教育長 他に何か御意見はありますか。

(発言なし)

日吉教育長 それでは、採択案をまとめていきたいと思いますが、採択案をまとめるに当たって、何か御意見はありますか。

櫻井委員 様々な委員から学校訪問についてのお話がありましたが、私も様々な学校を訪問させていただいて、学校の様子を拝見しました。各校とも特徴や特色があり、生徒の実態や進路希望も様々であることを実感しました。各学校の教科書選定方針や選定理由書を読んでみて、各校とも自校の生徒に最も適した教科書を選定していることが確認できました。自分自身でも教科書を丁寧に調査研究した上で、各校の選定理由書と照らし合わせることによって、学校が生徒の実情を踏まえて、校長を中心として組織的に教科書を選定しているという確信を持つことができました。これらを総合的に考えて、学校が選定した結果を踏まえた上で、採択案をまとめることとしてよいのではないかと私は思います。

首藤委員 私も今回の教科書について、教科横断的な学びや、AIに関する記述を含め、様々な観点から調査研究を行いました。現代的な課題に関する記述のある教科書や、教科横断的な学び・探究的な学びにつながる工夫がなされた教科書など、特色のあるものについて、理解を深めることができました。その上で、学校訪問や意見交換会を通じて、それぞれの学校がいかに自校の生徒に適した教科書を選定しているかを確認することができました。さらに、各学校から提出された選定理由書や概要報告書の内容を確認することで、それぞれの学校で校長を中心として教科書選定がしっかりと行われていることを確認できました。以上のことから総合的に判断すると、学校が選定した結果を踏まえて、採択案をまとめることとしてよいと考えます。

日吉教育長 今、委員の皆様から、「各学校には様々な特徴や特色があり、生徒の実態や進路希望も様々であることを実感している。それを踏まえて、各学校の教科書選定方針や選定理由書を読んでみると、各学校が自校の生徒に最も適した教科書を選定していることを確認できた。また、委員御自身でも教科書を丁寧に調査研究し、各学校の選定理由書と照らし合わせることで、更に確信を持つこと

ができた。」ことや、「各学校では、校長が、選定の重みを十分に認識した上で、慎重に選定作業に当たった様子が確認できた。さらに、学校訪問や意見交換会を通して、各学校の実情や生徒の実態を知ることができたし、それに対応するよう、しっかりと教科書を選定していることをこの目で確認することができた。これらを総合的に判断し、学校が選定した結果を踏まえ採択案をまとめることとしてよいのではないか。」という御意見を頂きましたが、いかがでしょうか。

○ 全出席委員同意

日吉教育長 御賛同いただきましたので、本日の協議を踏まえ、次回、事務局から議案として提案し、採択したいと思います。協議事項アは、ここまでとします。

○ 協議の結果、次回の教育委員会で採択することになった。

イ 令和6年度埼玉県立特別支援学校において使用する教科用図書の採択について

日吉教育長 この協議については、県立特別支援学校の教科用図書採択に関する協議でありますので、委員の皆様自身が教科用図書の発行者との関わりがあれば、御発言をお願いします。

(発言なし)

日吉教育長 特にないようですので、先に進みます。まず、事務局の説明に関する意見・質問を、次に学校訪問や校長との意見交換を行っての御意見を、その後、教科書調査研究に取り組んでの御意見を、最後に採択案をまとめるに当たっての御意見を伺うという流れで進めてまいります。それでは、まず、事務局から説明させます。

橋本特別支援教育課長 (提案理由、小学校に準ずる教育課程で使用する小学校用文部科学省検定済教科書、小学部で使用する特別支援学校小学部用文部科学省著作教科書、高等学校に準ずる教育課程で使用する高等学校用文部科学省検定済教科書及び文部科学省著作教科書並びに学校教育法附則第9条に定める教科用図書のうち一般図書等について説明)

日吉教育長 それでは、事務局の説明に関する御意見・御質問をお願いします。

櫻井委員 障害種別の合同調査研究や関係校長による勉強会を行ったと説明が  
ありましたが、県教育委員会がどのように指導・助言を行ったのか質問します。

橋本特別支援教育課長 教科書の調査研究に当たっては、資料38ページから4  
1ページの「選定基準等」を示しています。障害種別の合同調査研究や関係校長  
による勉強会の実施に当たっては、より詳細な「調査研究上の主な観点」を示し  
ました。これは、小学校用検定済教科書の各教科について、内容の取扱いや表記  
表現及び使用上の便宜に関する具体的な調査研究の観点を、障害種別に示して  
います。障害種別の合同調査研究や関係校長による勉強会では、県教育委員会と  
してその場に立ち会い、「調査研究上の主な観点」に基づいた指導・助言を適宜  
行ってきました。

戸所委員 事務局の説明にもありましたが、今年度は4年に1度の小学校用検定  
済教科書の採択年度に当たっており、協議案の1については、より慎重な検討が  
必要だと思います。協議案の1について、事務局の説明では、「障害種別の合同  
調査研究や関係校長による勉強会を開催し、県教育委員会として、そのプロセス  
ごとに指導・助言を行い、選定に関わってきた」とありました。また、学校から  
の選定案について、「教科書選定検討委員会を開催し、各校及び障害種別の選定  
経緯などを報告させ、関係校で情報共有・意見交換するとともに、県教育委員会  
から指導・助言を行ってきた」とありました。資料36ページがその流れを示し  
たものですが、プロセスとしては県教育委員会が積極的に教科書調査研究に関  
わってきたことが確認できると思います。

日吉教育長 他に御意見、御質問などはありますか。

(発言なし)

日吉教育長 続いて、教育委員の皆様には、6月に13校の校長と意見交換を行っ  
ていただきました。また、5月から7月にかけて、特別支援学校埴保己一学園、  
熊谷特別支援学校、けやき特別支援学校、草加かがやき特別支援学校を訪問し、  
学校現場の状況把握をしていただきました。これらの取組に基づく、御意見をお  
願いしたいと思います。

坂東委員 私は埼玉県立小児医療センターに併設しているけやき特別支援学校を訪問しました。この学校は院内学校で他の特別支援学校とは趣が違うと思います。病気を抱えながら学習するためには、普段通っている学校との連携も大事だと思いますし、一時的にしか使わない教科書も適切に選んでいると感じました。学習すると子供の生きる力も出てくると思います。その辺りはよく工夫されていると思いますが、まだ人格形成ができていない時期に死や病気をいかに感じているかということを考えながら、その子の適性に応じた教科書を選ぶということは大変な作業だと思いますし、配慮されていると思います。病気というのは非常に配慮を伴う個人情報です。そこを子供や保護者とどう共有するかが、教科書を選ぶ一つの視点だろうと感じました。

首藤委員 校長との意見交換会や学校訪問での校長との意見交換を通して、特別支援学校に配置された教員の中には、当初は特別支援教育を希望していなかった教員もいると聞きました。しかし、ある校長から「一から学ぶからこそ、教師としてではなく人間として成長できる」との意見があり、とても感銘を受けました。特別支援学校の教科書は非常に種類が多くて内容も多彩です。それぞれの学校で行われる教科書の調査研究は、子供の実態把握を深め、専門性が磨かれる作業であると思います。また、その調査研究は、子供のことを一番知る担任の声大切にされると聞きましたが、これは重要なことであると考えます。今後は若手教員が教科書調査に積極的にに関わり、経験豊富な先輩教員と意見交換を重ねながら研究を進め、教師として、また、人間としての成長の糧としてほしいと思います。

小林委員 知的障害の草加かがやき特別支援学校を訪問しました。校舎がとても新しく、また、窓ガラスも大きくて開放的な印象を受けました。今までの特別支援学校のイメージを覆される感じを受けました。見た目だけではなく、校長先生などとお話ししましたが、コミュニティスクールに力を入れていると伺いました。例えば、地域のフィットネスクラブで障害者向けの教室や水泳教室が開催されているとお聞きしました。また、近隣の大学でパンの販売や学習支援をしているとか、自治体や商業施設との連携も視野に入れていたといったお話が校

長からありました。特別支援学校というとどちらかというと閉ざされたイメージがありましたが、非常に開かれた特別支援学校だということが分かりました。訪問した時に、コミュニティスペースで生徒たちが勉強をしていました。その部屋の隅には保護者の方々がいました。これまで、保護者の方と校内でお会いすることはなかったので、通常の特別支援学校と比べて、保護者との距離が近そうだと思います。その辺りの状況を確認し、何か気を付けていることはあるか、校長に尋ねたところ、特に無いというお答えでした。保護者との距離が近いということは、裏を返せば信頼関係を築くチャンスが多いということであると説明があり、非常に頼もしく感じるとともに、非常に感銘を受けました。地域とのつながりや保護者とのつながりを大切にしながら、教科書の調査研究も積極的にされていることを改めて確認することができました。

首藤委員 肢体不自由の熊谷特別支援学校を訪問しました。知識としてはありましたが、肢体不自由校では、一人一人の障害の状況が大きく異なることを実感しました。傾向としては、重度の重複障害児が多いことを確認しました。特別支援学校の教科書は「学校教育法附則第9条」の規定により、いわゆる絵本などの一般図書が使用できることになっていますが、その必要性を確認することができました。

日吉教育長 私も6月に行われた特別支援学校の校長との意見交換会に参加しました。各校長からは、学校の教育目標や目指す学校像、また、地域と連携した特色ある教育課程を特別支援学校では持っているわけですが、そうした教育課程や保護者の声も大切にしながら、児童生徒の障害特性に応じた教科書を校内で組織的に選定していることを確認させてもらいました。また、校長自らが教科書を研究しながら、主体的に関わっていることをその場で確認することができました。

坂東委員 障害の程度や在り方によっては、最近始まっているデジタル化が非常に有効です。今まで本が持てなかった子たちが、画面を見ながら勉強ができるということは、ここ最近進んだことです。教科書にQRコードが入っていますが、そういったところをうまく活用しながら、先ほど申し上げたような子供た

ちが紙ではない形で教科を効率的に学ぶことができるものを選んでいくことが、今後の教育に必要だと感じました。

日吉教育長 他に御意見等がなければ、次に、教科用図書の調査研究に取り組んでの御意見などをお願いします。

小林委員 聴覚障害では、視覚優位であることや、聞こえにくさを補う必要があること、日本語の指導に難しさがあると思うので、文章が比較的簡単で簡潔で分かりやすく、写真やイラストがたくさん使われている視覚的な資料が豊富で分かりやすいということが大事だと思います。いろいろと資料を見ましたが、例えば、理科の教科書は私が使っていた頃と比べて、非常にカラフルで分かりやすいものが多くなったと思いました。写真だけではなく、イラストなどの視覚的資料という点では、どの発行者も豊富で分かりやすいと思いましたが、東京書籍の教科書は、QRコードによる動画コンテンツが充実していますので、聴覚障害のお子さんはこういったものが使えるのだろうと思いました。さらに、教科書の中に書き込めるようなワークシート部分も入っている教科書も多く、教科書そのものを自分の教材として作り上げていくことができるので、工夫されていると思いました。また、学校の授業で使ったものをそのまま家庭に持ち帰ることができるので、家庭学習でも活用できると感じました。

首藤委員 光村図書と東京書籍の6年生の国語で、同じ教材である立松和平さんの「海の命」を扱っていたので比較してみました。どちらも、写真、イラスト、簡潔な文章による脚注や考察があって、表記の仕方も整理されており、情報量も適切でした。その中で気付いたことがあります。一つは、この小説は「漁師として成長していく少年の物語」なので、クエ、イサキ、ブリといった魚の名前が度々登場します。光村図書では、脚注にQRコードが付いていて、すぐに写真でそれぞれの魚の姿を確認することができました。そのため、子供たちは想像しながら読み進めることができるのではないかと思います。もう一つは、漢字の使用に関することで、光村図書では「生涯」という漢字にルビが振られていました。東京書籍では「生がい」と「がい」は平仮名で表記されていました。「涯」は中学校で習う漢字のようですが、光村図書は事前に目にしておく、いわゆる予習を

意図してこうした表記にしているのではないかと感じました。多くの種類の学校で光村図書を選定しているようですが、こうした細かい配慮を踏まえて各学校が選定していることがよく分かりました。

日吉教育長 他に御意見はありますか。

(発言なし)

日吉教育長 それでは、採択案をまとめていきたいと思いますが、採択案をまとめるに当たって、何か御意見はありますか。

櫻井委員 各校の教科書調査研究の会議録を確認しました。それぞれの学校で、一人一人の児童生徒に向き合った上で、障害やニーズを把握しながら校長のリーダーシップの下に、組織的に、「児童生徒にとって分かりやすい、使いやすい」ということに留意して研究していることがよく分かりましたので、今回の採択については、学校の意見を十分に加味した上で検討したらどうかと考えます。

首藤委員 それぞれの特別支援学校の選定案について、選定理由書に照らしながら教科書の調査研究を行いました。子供の姿の実態を念頭に置いた確たる選定の理由があり、疑義の生じるものはないと判断します。

戸所委員 教科書は言うまでもなく、学校の授業における主たる教材です。教科書の採択に関わることに責任を感じるとともに、私もしっかりと教科書について調査研究を行いました。また、学校における選定の経緯、選定理由を確認し、選定の重みを各学校が十分に認識して、慎重に選定作業に当たった様子が確認できました。さらに、学校訪問や意見交換会などを通して、各学校の実情や児童生徒の実態を知ることができ、それに対応するように適切な教科書を選定していることをこの目で確認することができました。これらのことを踏まえ、総合的に判断し、学校が選定した結果を踏まえて採択案をまとめることとしてよいと考えます。

日吉教育長 そのほか、御意見はありますか。

(発言なし)

日吉教育長 それでは、今、委員から、「学校における選定の経緯、選定理由を確認し、選定の重みを各学校が十分に認識して、校長のリーダーシップの下、慎重

に選定作業に当たった様子が確認できた。さらに、学校訪問や意見交換会などを通して、各学校の実情や児童生徒の実態を知ることができた。それに対応するよう、適切な教科書を選定していることをこの目で確認することができた。これらのことを踏まえ、総合的に判断し、学校が選定した結果を踏まえて採択案をまとめることとしてよいと考える」という御意見をいただきましたが、いかがでしょうか。

○ 全出席委員同意

日吉教育長 御賛同いただきましたので、本日の協議を踏まえ、次回、事務局から議案として提案し、採択したいと思います。協議事項は、ここまでとします。

○ 協議の結果、次回の教育委員会で採択することになった。

(3) 報告事項

県議会令和5年6月定例会概要について

井澤財務課長 (提出理由、会期、本会議の質問、文教委員会における付託議案等、人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会における審査事項について説明)

(4) 次回委員会の開催予定について

8月24日(木) 午前10時

<非公開会議結果>

(5) 議事

第71号議案 県議会令和5年9月定例会提出予定案件について

県議会令和5年9月定例会提出予定案件の原案について決定しました。